

まほろば



2022
第235号

令和4年度プリセプター・さくらナース集合……

「みんなで新人看護師を支援していきましょう」を目標に今年度初めてプリセプター・さくらナース集合研修を開催しました。プリセプターとは主に新人の精神的支援をする先輩看護師、さくらナースは新人の役割モデルとなり病棟全体で新人を支援していけるようになる先輩看護師です。4月に入職した新人看護師17名も少しずつ環境にもなれ夜勤を迎えています。新人看護師も緊張の毎日ですがそれを支えるプリセプター・さくらナースも同じ思いでいます。3ヶ月を過ぎ少しリフレッシュしてまた支援をお願いしたいと企画しました。グループワークでは活発な意見交換がきかれ笑顔もみられほっとしています。「患者さんに寄り添える看護師になりたい」が新人看護師の目標です。患者さんと満面の笑顔で会話しながら頑張っている新人看護師と支えてくれている先輩看護師にエールを送りながら今後も支援していきたいと思えます。 **教育担当看護師長：秋元 美穂子**



職場紹介 『臨床工学技士室』

2003年に入職してから1人職場として勤めてきましたが、今年度から3人体制となりました。増員の理由は、循環器内科で新しく心臓カテーテル検査と治療を開始するため、循環器内科医長から事務部に要望が出され、機構本部で承認されました。ただ、これまでと同様、所属は医療安全管理室で上司は医療安全管理係長となります。

主な新規の業務として、心臓カテーテル検査と治療で使用する心臓カテーテルモニタリングシステム（ポリグラフ）、血管内超音波診断装置と冠動脈予備量比測定装置、大動脈内バルーンポンピング装置などの操作と血液内科における自家末梢血幹細胞採取を行うための遠心型血液成分分離装置の操作が増えました。



どれも高度な知識と技術を要するので、安全かつ正確な業務遂行に努めてまいります。 **主任臨床工学技士：谷川原 勝史**

永年勤続表彰伝達式

令和4年6月3日（金）に独立行政法人国立病院機構の永年勤続表彰伝達式が執り行われました。

伝達式では、勤続30年以上勤務者6名、勤続20年以上勤務者4名が表彰され、当日出席された表彰者に大熊院長から表彰状と記念品が授与され、同席した職員より盛大な祝福を受けました。

大熊院長より、長年に亘り国立病院機構のために努力された事、苦勞された事に対する労いと健康に留意し、引き続き良い医療を提供いただきたいとの激励の祝辞が述べられました。また、受章者を代表して看護師長の秋元美穂子さんが表彰されたことを励みとし、これまでの経験を生かしより良い仕事ができるよう努力していきたいとの謝辞を述べ、表彰式を修了しました。

表彰されたみなさん、永年勤続表彰おめでとうございます。今後も健康に留意され、一層ご活躍されることをご期待しております。

庶務班長：越田 幸樹

表彰者は、次のとおりです。

【永年勤続30年以上勤続】

看護師長	秋元 美穂子
看護師長	清野 忍
看護師	溝江 徳子
企画課長	太田 慎一
経営企画室長	畠山 卓士
経理係	小田桐 千秋



(写真撮影のためマスクを外しています。)

【永年勤続20年以上勤続】

呼吸器内科部長	中川 英之
呼吸器内科医長	山本 勝丸
医薬品情報管理主任	滝本 聡子
教員	下山 美智子



楽しかった親子遠足

新型コロナウイルスの流行により開催出来なかった親子遠足でしたが、今年は6月4日に園児と保護者とともに弘前りんご公園へ訪れ、開催することができました。

子どもたちはパパやママとボール遊びをしたり、散歩をしたり、お友だちと一緒に山に登ったり、すべり台やブランコに乗ったり、広い場所で元気に駆け回ったりして短い時間ではありましたが、いっぱい楽しめました。帰る時間になると「もっと遊びたい」「帰らないよ」と泣いたり、怒ったりと遊びたい気持ちを表現してパパとママを困らせていました。

様々な制限がある中、お友だちやお家の人と一緒に出掛けることができ、素敵な思い出となりました。子どもたちや保護者の皆さんが笑顔で交流している姿を見て、開催することができて良かったと改めて思いました。

風の子保育園 園長：木村 美千代



看護学校防災訓練

6月22日、看護学校で火災に関する防災訓練がおこなわれました。学生全員の避難訓練と消防士による講話を実施しました。

避難訓練では、安全に避難する方法を学生それぞれが考えて避難場所へ逃げました。消防士による講話では、消火器の使用方法や避難経路確保のための行動についてご講義いただきました。学生たちは訓練を通し、自分自身、また医療者として患者様を守るための行動を再確認し、日頃から取り組むことのできる安全対策を考える機会となっております。



確かな防災知識を持ち、考え、行動する医療者の育成を目指し、臨場感のある訓練を今後も実施していきたいと考えております。

看護学校教員：吉田 茉莉恵

研修医便り

こんにちは。研修医一年目の村松凱斗です。静岡県浜松市の出身です。弘前の生活には慣れましたが、弘前から浜松まで新幹線を使い継いで6時間もかかるので帰省をする機会が少ないことが学生の頃からの悩みです。このように地元のことを考えると小さい頃から野球に明け暮れていた自分がここ弘前の地で医師として働いていることに驚きます。



4・5月は救急科をローテーションさせていただきました。入江先生をはじめ、JNPの前田さんやナースの方々は何もできない自分に多くのことを一から教えてくださいました。最初から救急科を回ることに対し不安を抱いていましたが、今振り返ると最初のローテーションで救急科を回ることができて本当に良かったと思います。初期研修医として働き始めたばかりですが、日々精進して参りますので今後ともよろしくお願い致します。

臨床研修医：村松 凱斗



皆様初めまして。研修医1年目の山口貴子と申します。出身大学は弘前大学ですが、出身地は北海道札幌市です。弘前へ来て6年以上が経ち、札幌人というよりもすっかり弘前人ですが、今日は故郷を思い出し、その名前の由来についてお話しさせていただきたいと思います。北海道の地名の多くはアイヌ語が語源です。札幌の名の語源は「サリ・ポロ・ペツ」（その葦原が・広大な・川）とする説と、「サツ・ポロ・ペツ」（乾いた・大きな・川）とする説などがあります。他にも小樽、知床、富良野など、たくさんの地名があるので興味があったら調べてみてくださいね。私も知らない地名の由来がほとんどなので面白いのがあったら是非教えてください。今後ともよろしくお願い致します。

臨床研修医：山口 貴子

